

大念佛



No.66
発行/融通念佛宗
総本山 大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026

題字：融通念佛宗 管長 倍巖良舜

万部おねり

五月一日(水)～五日(日)



「万部おねり」のいわれ

平野の「万部」あるいは「万部おねり」として親しまれているこの大法会は、正式には「阿彌陀經万部読誦・二十五菩薩聖聚来迎会」といいます。

八世紀頃(平安時代)から、人々の間に極楽浄土に往生したいという願望が広まり、来迎図が盛んに描かれるようになりました。その欲求

はさらに菩薩の面・衣装を身につけ、往生の実体験を試みるところまで発展していきました。迎講・往生講などといわれるものです。これを「聖聚来迎会」といいます。

大念佛寺における「聖聚来迎会」の起源は、第七世法明上人(一二七九～一三四九)が臨終の行儀をまのあたり拝したいと考え、菩薩の面・衣装をしつらえ最晩年の貞和五年(一三四九)

春、自ら行者となって来迎の儀式を執り行ったことに始まります。

近世に入り明和六年(一七六九)第四十九世堯海上人のとき、阿彌陀經一万部を読誦して檀信徒と有縁無縁諸霊の追善を祈って万部会が創始されました。

この二つの法会が合体して今日に及んでいるのが「万部おねり」の儀式です。

二十五菩薩練り供養

菩薩役役長 大東 良弘



「般若心経」に菩提薩埵とありますが、これを略して菩薩といいますが、菩薩はこの上なき覚りを求めて、さらなる人格の向上に努めるかたわら、世のため人のため身命をとして救済活動を行う人のことをいいます。「万部おねり」の菩薩は、阿彌陀仏の本願である衆生を一切の苦悩から解き放ち、真実にめざめさせるといふ活動を手助けするために、二十五の姿をとって表現されています。



阿彌陀仏も菩薩も幸ある国土と呼ばれる極楽浄土におられますが、そこに留まってじっと住んでおられるだけでは阿彌陀仏も菩薩もともに私たちと遠く離れた存在になつてしまいます。

そこで、苦悩の無い清らかなで幸ある国土である極楽浄土から、穢土と呼ばれる私たちの住む世界にあえてやって来て、救いの手を差し伸べて下さるのが菩薩なのです。次に二十五菩薩練り供養についてですが、まず第一番目に紫金の蓮台を手に腰をかがめられた姿勢で観世音菩薩が現れます。大慈悲心をもって衆生をあらゆる災難より救い、臨終を迎えた人を蓮台にのせて運びます。二番目に腰をかがめ合掌のお姿で、勢至菩薩が現れます。智慧をつかさどる菩薩で衆生に菩提心を起こさせます。三番目に幢幡を手に薬王菩薩、四番目に玉幡を手に薬上菩薩が現れます。薬王・薬上菩薩は兄弟で、共に良薬を与え衆生を病苦より救います。五番目に幡蓋を手に普賢菩薩、続いて金藏菩薩(瑟)、獅子吼菩薩

二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	万部法要二十五菩薩名並び持物
無辺身菩薩	大威徳王菩薩	白象王菩薩	大自在王菩薩	三昧王菩薩	定自在王菩薩	月光王菩薩	日照王菩薩	衆宝王菩薩	陀羅尼菩薩	光明王菩薩	山海慧菩薩	金剛藏菩薩	法自在菩薩	寶藏菩薩	徳藏菩薩	虚空藏菩薩	華嚴王菩薩	獅子吼菩薩	金藏菩薩	普賢菩薩	薬上菩薩	薬王菩薩	勢至菩薩	観世音菩薩	
香炉	供華	寶幢	華幢	華鬘	太鼓	振鼓	羯鼓	銅鑼	鳳簫	琵琶	箜篌	欽	筆樂	横笛	笙	腰鼓	鉦鼓	拍子板	瑟	幡蓋	玉幡	幢幡	金剛合掌	紫蓮台	



共(に)幸(あ)ふれる世界に往(い)きつくことを、願(ねが)い励(こ)むその姿と心に重(あ)なり合(あ)います。私(わ)たちひとりひとりもその菩薩(ぼつさ)でもあるのです。この素晴(すば)らしい大法会(だほくわい)を是非(ぜひ)ご覧(らん)になつて極楽浄土(ごくらくじやうど)の世界(せかい)を体感(たいかん)して下さい。

その後、本堂内において、菩薩伝供式と呼ばれる献花の儀式が行われます。雅楽と声明の流れの中、十体の菩薩が、左右五身ずつに別れ一つ一つ献花なされます。

菩薩は、菊・菖蒲・百合・芍薬・蓮の五種類の紙製の常花を、順に手渡しでご本尊にお供えします。この時の菩薩のお姿は、日頃仏さまにお供物をお供えする私たちの、全ての人が濁りに染まることなく

(拍子板)、華嚴王菩薩(鉦鼓)、虚空藏菩薩(腰鼓)、徳藏菩薩(笙)、寶藏菩薩(横笛)、法自在菩薩(箜篌)、金剛藏菩薩(欽)、山海(瑟)、光明王菩薩(琵琶)、阿彌陀(鳳簫)、衆宝王菩薩(銅鑼)、日照王菩薩(羯鼓)、月光王菩薩(振鼓)、定自在王菩薩(太鼓)、三昧王菩薩(華鬘)、大自在王菩薩(華幢)、白象王菩薩(寶幢)、大威徳王菩薩(供華)、無辺身菩薩(香炉)それぞれ持物を手にした二十五の菩薩が練り歩き、お渡りになるお姿はまさに極楽浄土の莊嚴華麗な様子をよく現しています。



「カッサバ(三迦葉)」とは… 臨濟宗妙心寺派布教師である片山秀光和尚が震災前の平成二十二年十月に結成された節語り説教ユニットで、音楽を取り入れた新しい形の布教活動。演奏の構成は、和尚の実弟でジャズドラマーであるバイソン片山さんがドラムを、富塚孝さんが津軽三味線を、八代真生さんがピアノとボーカルを、岸淑香さんがキーボードを担当。

片山和尚は自坊が大変な被害を受けられましたが、「めないにげないくじけない」を合言葉に、地元 気仙沼の復興に全力で取り組まれています。また、被災地の現状を伝え、救援に対する御礼参りの気持ちを込めて全国を回られています。今回の来山は昨年の菩薩練り供養に対する御礼参りの意味も含まれています。音楽法話「カッサバ」の力強い魂のこもった演奏をどうぞお聴きください。

昨年三月十日、臨濟宗妙心寺派 地福寺宮城県気仙沼市での震災一周忌法要において菩薩役有志が練供養というかたちで参加させていただいたことが縁となり、宗派の垣根を越えて今回音楽法話を本堂にて奉納演奏していただきます。

気仙沼 地福寺片山秀光和尚 追悼御礼法要 音楽法話 五月三日(金)十時より

仏教讃歌奉納

融通念佛宗聖歌隊

五月二日 午前十一時～十一時三十分
五月五日 午前十時～十一時

融通念佛宗聖歌隊は、大阪芸術大学通信教育学部の河田早紀先生より声の出し方の基礎や、歌詞の意味を理解して歌う事を学び、またピアノリストの高木寿美代先生には、女性コーラスの三つのパートを歌い易いように丁寧に指導頂いておられます。お二人の先生のご指導を楽しみに、月二回の練習に会員が集まっております。

今年の万部法要には、平成二十年の開宗九百年、再興大通上人三百回忌御遠忌に向けて吉村宗務総長作詞の「法によるこび」と、他に「大切なもの」という曲等を奉納致します。

日頃忙しい生活の中で忘れていたものを歌の中から感じて、温かい気持ちになって頂けるよう全員で一生涯懸命歌いたいと思っております。

魚山流 詠讃歌舞奉納

融通教会

五月一日～四日 午前十二時頃
五月五日 午前十一時三十分頃

詠讃とは詠歌・和讃のことで、詠歌は我が国では和歌を詠むこと、または和歌そのものを意味します。和讃は仏教讃歌の一種で七五音の句を連ねることが多く、これに曲節を付けて朗唱する形態をとります。詠歌は節もの、和讃は語りものです。詠讃歌は融通教会が永年にわたり引継ぎ、数々の詠歌や和讃が「魚山流詠讃歌」として作詞作曲されました。その譜面の完成度の高さや音階の美しさから、他流には類を見ないと評価されるほど味わい

と深みがあります。

さて、奉納いたします詠讃歌舞は、敗戦の混乱で荒廃した世の中に「心に光明を」との願いから、昭和二十五年当時に武田花風師(魚山流詠讃歌舞家元)により万部和讃に振り付けられたものであります。誰にも親しまれ口ずさまれる万部和讃、及び金銀の舞扇の折り返される華麗な渡御は、五月晴れの万部法要に欠かすことのできないものであります。

雅のハーモニー

楽融会

五月四日 午前十一時～十二時

今年の演奏曲は、管絃「黄鐘調音取」「鳥急」、舞楽「振鉦」「延喜楽」童舞「迦陵頻」を予定しております。

楽融会は、本山での法要楽を主として演奏しておりますが、万部会の時にのみ、仏様への御供の意味で雅楽を奉納しております。その時は御参詣の皆様にもお聴き頂ける様に、御本山の許可を頂き、

御本尊を背にして演奏するのが「雅のハーモニー」です。「鳥急」「延喜楽」童舞「迦陵頻」を予定しております。

楽融会の会員は、末寺の住職として寺務繁多の中、練習に励んでおります。是非、万部法要に御参り頂き、本堂の中で、雅楽の音色をお聴き下さい。



青年会だより

傾聴ボランティアに伺って

昨年十月二十四日・二十五日、融通念佛宗青年会で福島県いわき市に傾聴ボランティアに伺って頂きました。

一昨年から引き続き、いわき市には三度目の訪問になります。私自身は、二回目の訪問になりますが、前回から一年経った街の復興の歩み、人々の心の変化等、新聞テレビではわからない生の空気を感じ取ればと参加しました。今回の参加者は八名、皆で夜行バスに揺られ二十四日早朝にいわき市に到着いたしました。



まずいわき市社会福祉協議会にて、万部法要での塗り絵展示の際、お預かりした募金等を含む義援金をお届けしました。

その後二日間にわたり、仮設住宅一箇所、雇用促進住宅二箇所を活動させて頂きました。

前回同様にこちらからご焼きセットを持参し、住民の方々に召し上がってもらいながらいろいろ

融通声明コンサート

融通声明と「語り物のボランティア、琵琶法師」とのコラボレーション

五月三日 午前十一時～十二時

雅楽とともに伝来した琵琶は、メロディを弾くのではなく、曲にアクセントをつけるリズム楽器のような音楽的役割でした。この奏法と声明の唱法が結びついて日本独自の語り物音楽が発生します。

時代を経て十三世紀半ばには「平家物語」の原型が生まれ、やがて琵琶法師によって平家琵琶が全国各地に広がっていくようになります。

九州地区では筑前と薩摩の琵琶は肥後や日向などにも及ぶようになり、江戸時代以降、彼らの琵琶集団は近現代の琵琶楽を生む原動力となりました。

今年は、声明とも縁の深い「薩摩琵琶」の演奏、そして融通声明とのコラボレーションをお楽しみ下さい。



家が津波で流され、嫁ぎ先は原発の避難地域になり、今いわき市に居るとい方がおられ、震災から一年半経っても全く将来の希望が持てないとおっしゃっていました。

街の中の壊れた建物や瓦礫は、ほぼ撤去されていましたが、人々の心の中には震災がまだまだ大きな影を落としていることを肌で感じました。

そんな中でも震災後に生まれた赤ちゃんを連れてきてくださったお母さんがいて、その笑顔で周りを和ませてくれていました。

この子達の瞳に映る未来がより良いものになるように、今後とも微力ながら活動を続けていきたいと思っております。

別れ際に手を取って、「福島のことを忘れんといてね」と言ったおばあさんの言葉が心に残っています。

融通念佛宗 青年会会長 田中 良宏

平成25年 万部法要 日程・時間表

日程 時間	5月1日(水)	5月2日(木)	5月3日(金) 憲法記念日	5月4日(土) みどりの日	5月5日(日) こどもの日
6時30分	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行	半斎勤行
9時30分	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦	おつとめ 阿弥陀経 読誦
10時			気仙沼 地福寺 追悼御礼 法要		
10時30分		大念佛寺奉賛会 祈願法要			仏教讃歌奉納
11時		仏教讃歌奉納			布教
11時30分	八島念佛講	安堵念仏講	融通声明 コンサート	雅のハーモニー	宗務総長 挨拶 魚山流詠讃歌舞
12時	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	魚山流詠讃歌舞	世界平和祈願 護摩供養
12時30分	布教	布教	布教	布教	
1時	宗務総長 挨拶 お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	宗務総長 挨拶 お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り	お稚児・詠讃歌舞 禪門講・諸講元 お渡り
2時	二十五菩薩練供養 入御 万部輿 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長猥下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部輿 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長猥下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部輿 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長猥下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部輿 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長猥下 内外十念	二十五菩薩練供養 入御 万部輿 渡御 菩薩 伝供 阿弥陀経 読誦 供養衆 万部結縁回向 阿弥陀経 読誦 管長猥下 内外十念
3時					
3時30分	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御	二十五菩薩練供養 還御

※各種奉納行事の内容・時間については、変更する場合がございます。

お稚児さん募集

たくさんのお参りの方に身寄せられ、ほとけさまを身近に感じられるすばらしい渡御となることとしましょう。

「菩薩様との記念撮影」も大変貴重な経験となります。是非ご参加ください。

■日程 五月一日～五日

■費用 お一人 八千円(一日)



※白足袋か白靴下を御用意ください。

申し込み 大念佛寺寺務所まで
電話〇六―六七九一―〇〇二六
※当日の申し込みは午前十一時まで受け付けております。

勧進のご案内

◎塔婆回向

本堂にて受付(十時から十五時まで)
◎万部中常回向(五日間) 五千元
※万部終了後であっても五日間回向致します。

◎各種勧進

- 当日回向 (一日) 三千元
- 巻線香(御本尊用) 五百円
- 本堂正面用口ウソク 二千元
- 脇壇用口ウソク 一千元
- 本堂大屋根 瓦勧進 二千元

青年会だより

色とりどりのぼさつさま

毎年好評を頂いております「ぼさつさまぬりえ」は今年で七回目になります。今年も多くの方の「おねがいごと」と色とりどりのぼさつさまをお待ちしております。尚、塗り絵の用紙は大念佛寺本堂・寺務所にごございます。また、青年会ホームページからもプリントアウトいただけます。



大念佛寺本堂・寺務所

●JR大和路線「平野」から南へ歩いて5分
●大阪市バス「1」9「14」JR平野駅南口、近鉄バス「平野元町6丁目」下車すぐ
●地下鉄谷町線「平野」①②出口から北へ歩いて8分

大阪府平野区平野上町1-7-26
電話 (06) 6791-0026

◎万部結縁回向

一昨年、七十四年ぶりに復活した「万部輿」輿に納めた万部経に霊名を記し、管長猥下によって永代に渡って回向されます。

伝統あるこの法会に、よきご縁を結んでいただきたくお勧め申し上げます。

永代回向料 一霊 一〇万円
申込受付(本堂売店・寺務所)



◎御遠忌 写経納経

納経された写経は、延喜殿にて永代奉納させていただきます。「般若心経」または「日課浄業」の二種納経料 一卷 一千元 受付 (本堂売店・寺務所)

御遠忌だより

去る平成二十四年十二月三日に 延喜殿地鎮起工式 無事執り行われる。

寒風吹きすさぶ中、「エイ、エイ、エイ」の掛け声と伴に立砂と呼ばれる円錐形の盛砂に起工式の象徴的儀式である鉄入れの儀が行われました。この起工式により土地を清め、工事の安全が祈願出来、これから愈々延喜殿の工事が始まります。今年度の万部法要は、参詣の皆様には何かと工事により御不便をお掛けいたしますが、来年の万部法要には新しい延喜殿が御披露目出来る予定で、快適に御参詣いただけるものと思っております。

